

Ⅱ. 景観特性と景観形成の課題



1. 景観特性

(1) 藍く澄んだ海と山々の緑が織り成す豊かな自然景観

有明海、不知火海、東シナ海に囲まれた本市は、内海特有の多島海景観を見せる東海岸と、外洋に面し奇岩が連なり荒々しさを見せる西海岸など、変化に富んだ特色ある海岸景観を形成しています。藍い海と緑の島々、海に沈む夕日、漁船が浮かぶ風景は、自然の雄大さやのどかさを伝えてくれます。

市域の大部分を占める森林地帯は、緑の島を形づくり、急峻な山々は海岸まで迫り、海上からも山並み景観を楽しむことができます。また、山頂や岬、海岸線から見る風景は、雄大な自然のパノラマです。



■天草灘に沈む夕日



■御所浦烏峠から見渡す絶景

(2) 天草の歴史を物語る文化的景観

日本の西端部に位置する本市は、その地理的特性から、古来、外国との結びつきが深く、16世紀のポルトガル人渡来以降、南蛮文化やキリシタン文化が華開きました。また、漁村集落や農村集落に見られるこれらの風景は、人々の生活と生業から文化的景観を育んできました。

こうして、人々は古くから海や山の恵みを受け、自然とともに生きる知恵や技術が伝承されてきました。防風のために築かれた民家の石垣や、背中合わせに立ち並ぶ背戸輪（屋）の漁村家屋群などは、地域色豊かな集落景観を形づくっています。



■漁村集落と崎津教会



■農村集落と大江教会



■ 石垣の集落



■ 背戸輪（屋）の集落

（3）天草の都市景観

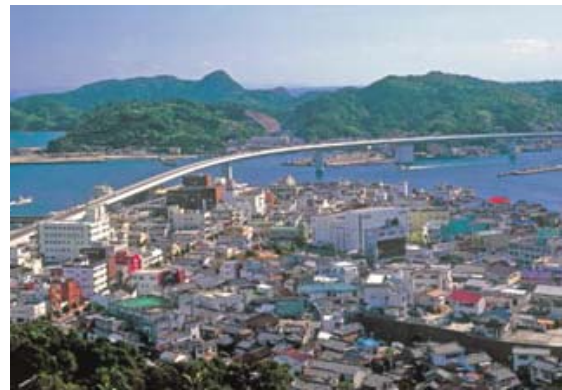
本渡・牛深の市街地は、海に向かって開けた平野部に形成され、人々が集まり、近隣都市との交流を深めながら発展してきました。

行政機関、事業所、交通施設が集中する本渡の市街地は、染岳や十万山などの緑に包まれ、上島の沿岸を走る国道からも山裾に広がる都市景観を見ることができます。市街地を貫く町山口川には国の重要文化財に指定される祇園橋が架かり、都市空間の中にも歴史的な趣のある景観が存在しています。

天草最南端の牛深の市街地には、古くからの港町にハイヤ大橋などの新しい都市施設が融合した景観があります。海岸からは海を隔て、長島（鹿児島県）の景観を間近に望むこともできます。



■ 十万山から見渡す本渡の市街地



■ ハイヤ大橋と牛深の市街地